

ヒロセ電機株式会社

2020年3月期 第2四半期 決算説明会 Q&A 要旨

Q1：

中長期成長戦略の新携帯端末の構成比、2019 上期 26%から 2022 年度 17%とあるが、2022 年度の構成比が低いのではないかと？

A1：

来期計画および中期計画の見直しに入っている。マイクロコネクタのビジネスチャンスを従来の予想以上に感じているので見直しの必要性は認識している。

Q2：

5 G における事業機会について詳細を説明して欲しい。

A2：

5 G はこれから本格化する展開として注力している。端末系は既に動いており、デザインも対応している。ビジネスインパクトとしてはなだらかに上がるとみている。

Q3：

上期 R & D 費用の実績と今年度の見通し金額が知りたい。

A3：

2019 上期実績 62 億円。年間予想は 130 億円、当初予想と変更ない。

Q4：

3 Q の分野別見通し 2 Q 対比が知りたい。

A4：

スマホ向けは中国韓国含め 3 Q も継続する見込みで 2 Q と同程度のボリューム、産機は年度末に向かってゆっくり回復するイメージで考えている。

Q5：

下期見通しについてお聞きします。上期に対して40億円ぐらいの増収で、土地売却益を除いても減益になっている。何か特別なことはあるか。

A5：

円高による為替影響、3年に一度の技術展費用、一部値引きなど、いくつかの要素を織り込んで見ているところはある。

Q6：

中長期戦略、分野3本柱の展開遅れの理由を教えてください。将来の仕掛けを強化するとはどういう内容なのか詳細を知りたい。

A6：

産機系では、中期では2019年度に上がってくる見込みでいたが市況の変化で厳しい状況であること。車載系では、さらに部品にクオリティ高いものを求められてモノづくり強化を加速させているなど。

Q7：

将来的な準備に対応していると思うが、世の中が変化している中で追加的にリソースを振り向けることができるか。

A7：

いろいろな面でまだまだ不足があるので、追加のリソースを緩めることはないと認識している。

Q8：

下期業績予想に関して、値引きが要素の1つとのことだが、どの分野向けなのかなど詳細を知りたい。

A8：

値引きが確定しているわけではなく、リスクとして折り込んでいる。市場売価のダウン傾向や定期値引きなども含んでいる。

免責事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい。